



本社の大樹 (朝上町)

谷筋に三二一もの神楽講が残る 伝統文化と民俗芸能息づくふるさとを 受け継いでいきます。

豊かな自然に囲まれ 神々が舞う里

神々と泣き、笑い、
生きるふるさと

神楽とは、神々をなぐさめ、祈りを捧げるために奉納される歌舞のこと。
その起源は古く、五穀豊穡や無病息災を願って、本来、神殿で神官によって奉納されていましたが、神と人とを繋ぐ躍動感あふれる舞や歌は、やがて里に降り、民衆によって受け継がれてきました。
全国各地の神楽が、時代の流れとともに途絶えていく中、京築地域には、今も三二一の神楽講があり、地域の人々によって大切に守られ、子どもたちへと伝えられています。

求菩提山の修験道文化

また、京築地域を象徴する「求菩提山」は日本三大修験道の山「英彦山」とともに、修験者たちが悟りを求めて厳しい修行に挑み、山の神に祈りを捧げた



- 1 三毛門神楽 (豊前市)
- 2 土屋神楽 (吉富町)
- 3 友枝神楽 (上毛町)
- 4 今井紙屋祭 (行橋市)

場所です。
今なお残る神社仏閣や、「松会」「お田植祭」などの神事に、修験道文化の精神をうかがい知ることができます。
山々の自然に囲まれ生きていく中で生まれた祈りのかたち。京築地域の暮らしの風景には、その「人と自然との共生」という精神が息づいています。



- 5 菊田山笠 (菊田町)
- 6 生立神幸祭 (みやこ町)
- 7 松尾山お田植祭 (上毛町)
- 8 神船渡 (吉富町)
- 9 船応渡 (豊前市)



6